JUNO　埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会ニュース　第130号

2017年（平成29年）7月10日　埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会　発行　☆さいたま市大宮区高鼻町4－219

これからよろしくお願いします

埼玉県立歴史と民俗の博物館展示担当　学芸員　**青笹　基史**

今年度よりお世話になります、青笹基史と申します。常設展示第１・２室の管理・運営を担当いたします。よろしくお願いいたします。

専門は考古学で、古墳に副葬された武器を対象として調査・研究をしています。

以前は新宿区の埋蔵文化財保護行政に携わる職員として働いていましたが、博物館は初めての勤務となります。まだまだわからないことばかりですが、精一杯努めてまいります。

今回自己紹介ということでしたので、考古学をはじめたきっかけを書いてみようと思います。初めて興味を持ったのは、小学生の頃でした。親に連れて行ってもらった博物館でエジプトのミイラを見たのがきっかけだったと記憶しています。その後、2000年に開催された四大文明展の図録を手に入れ、考古学を学びたいと思うようになりました。そこからは、暇を見つけては地面とにらめっこをし、どこかに土器が落ちていないか探す立派な（？）考古少年となりました。小学校高学年の頃には、土器がたくさん落ちているところはどうやら遺跡らしいとわかり、ますますのめり込んでいきました。その頃は自分が学芸員になるなんて夢にも思っておりませんでした。

今も休みの日に出かけた先で、地面とにらめっこしつつ、遺物を見つけています。なので、今も昔も変わらず考古少年のままなのだ、と思っています。年月とともに少年ではなくなってしまいましたが、気持ちだけは少年のままでありたいと思っております。

「百年経ったら……」

埼玉県立歴史と民俗の博物館企画担当　学芸員　**林　真美**

タイトルは、わたしの座右の銘（の、ようなもの）です……と、その前に自己紹介を。同じく、林 真美と申します。主に館内における広報などを担当しています。どうぞよろしくお願いします。専門は日本近代史で、明治維新像の形成や創出といった歴史意識の問題について研究しています。大学院修了後、地元で公務員をしていたところ、やはり歴史に携わる仕事がしたい！と一念発起、都内で自治体史の編纂をしたり、私立博物館で学芸員をしたりしていました。

「歴史に携わる仕事がしたい」と望むほど歴史を好きになったのは、子どもの頃からの環境だと思います。日曜午後８時は（歴史好きである母の采配により）食卓を囲んで大河ドラマ、愛読書は高校で日本史の教鞭を執っていた叔父（母の弟）から贈られた小学館の「日本の歴史」シリーズと、歴史が身近にあるのは当たり前になっていました。幕末・維新期を専攻しようと決めたきっかけは『新選組』でした。毎週ハラハラした日曜日。最終回の「何が正しくて、何が間違っていたかなんてことは、百年後、二百年後の者たちが決めればいい」というせりふは、今でも胸に刺さっています。志半ばで斃れた志士の書簡などを前にすると、百年経ったらきっと報われるという気持ちを掬い上げなくてはと身の引き締まる思いがします。

「歴史」は単なる史実の集合体とは限りません。過去に関するさまざまな「記憶」が語られたり、叙述されたりすることによって、「物語（ナラティヴ）」ともなります。これから、学芸員として、県民の皆様にそうした地域の「物語」をお伝えしていきたいと思います。

今後のイベントスケジュール
＊　申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:http://junosaitama.net/　ブログ:http://hakutomobulog.at.webry.info/

○７月19日（水）　プレミアム講座『本多静六以前の大宮公園』　＜前号で紹介＞
○８月27日（日）　友の会見学会『浅間山天明噴火の遺跡巡り』　**＜今号で紹介＞**
○９月６日（水）　プレミアム講座『武州藍　伝統のわざ』　＜次号で紹介＞
○９月20日（水）　友の会見学会『上総国分寺関係』　＜次号で紹介＞
○９月22日（金）　まち歩き研究会「朝霞」（再企画）　＜次号で紹介＞
○９月30日（土）　古道探索倶楽部「赤山街道・越谷道をたどるシリーズ　２」　＜次号で紹介＞
○11月５日（日）　お祭りクラブ「時代まつり」（埼玉県嵐山町）

〜〜

第１回見学会は『筑波山麓の古塔と真壁の町並み巡り』

筑波山系の西麓は良好な自然環境と神社仏閣や旧家などの歴史的遺産に恵まれ、特色ある伝統文化が受け継がれてきた地域です。今年度友の会第１回見学会はこの地に残る寺院の仏塔と重要伝統登録建造物が百棟近く軒を連ねる真壁の街を訪ねました。

小山寺は富谷山の中腹にある天台宗の寺院で行基開基の伝承を持つ古刹です。現在は富谷観音の名で親しまれています。麓からの参道は600段を超す石段を登ることになりますが、この日はもちろん車道で山門下へ直行。塔は室町期の寛正六年（1465）に建立され、幾多の苦難を乗り越えて今日に遺された重要文化財です。昭和63年から３年がかりの解体修理で建立当時の姿に戻され、その姿の良さは東日本中で一級品と評されています（**写真**）。

楽法寺は雨引観音の名で知られる安産子育て祈願でお参りする人の絶えない名刹です。伽藍中央に建つ多宝塔は嘉永六年（1853）黒船来航の年に建てられました。多宝塔は日本固有の木造仏塔で円形の塔身と宝形の屋根が折りなすバランスの妙は堂宮大工の腕の見せ所で、それだけに取組みが難しかったのか東日本には分布の少ない仏塔です。その中で規模の大きさでは、全国でもトップクラスに入る雄大な塔でした。

近世の町割りがそのまま残る真壁の町並みは、小グループに分かれて４人のガイドさんに案内していただきました。何代も続くお店のご主人にお話を聴いたり、町おこし、活性化に奮闘されるリーダーの苦労話に感動したり町と人とにふれあえた一刻でした。アクセスも良くなってきたので最も賑わうひな祭りの頃にまた再訪したいものです。

帰途、立ち寄ったつくばみらい市の板橋不動院にも江戸中期建立（安永八－1779）の三重塔があります。こちらも平成五年から二年をかけて修復され彫刻・彩色の豊かな建立当時の華麗な姿を見ることが出来ました。このように木造の建造物は手入れさえ怠らなければ法隆寺のように後世に遺していけます。ひるがえって平成に生きる私たちが建てた建造物のうち五百年、千年後に遺るものは有るのでしょうか。そんなことも考えさせられたツアーでした。（中村 均　記）

友の会からのお知らせ

『JUNO』にエッセイや旅行記・書評などの原稿を送ってください。

◎友の会の機関誌『JUNO』で広く会員の皆様の原稿を募集します。内容は自由ですが、友の会や博物館活動に関連したもので、300〜400文字程度。編集委員会で検討の上、誌面に掲載します。内容・テーマにより巻頭エッセイへの掲載をお願いする場合もあります。送り先は「博物館内友の会」あて郵送。またはＥメールで pu8n-tki@asahi-net.or.jp まで。

講演会『火山がつくった世界遺産・富士山』

５月27日に開催、110名が参加

総会が行われた5/27の午後の講演会は岩井新会長の司会で進め、冒頭、新年度に当たって書上館長から会員にご挨拶をいただきました。

この日の講演会は、世界文化遺産に指定された富士山を、自然の造形の視点から理解し、その保全と火山がもたらす災害への対処についても考えようという内容です。講師はＮＨＫ・ＴＶの「ブラタモリ」でも案内役を務めた静岡大学の小山真人先生。110名の参加者が聴講しました（**写真**）。

富士山の雄姿を現代の我々が目に留められる幸運を自然の計らいに感謝する一方、平安時代の貞観噴火や江戸時代の宝永噴火のような大噴火の影響に思いを巡らせました。また、「火山とどう向き合うか」という話の中で、災害と恵みの表裏一体の両面を的確に受け入れなければならないことを認識しました。

このような自然の大きな活動を守っていく手段として「ジオパーク」の考え方が効果ありとのこと。例えば、白糸の滝の後退などに対する保全も、関連する広い地域全体としての保全から考える必要があるようです。（西本豊司　記）

会員の投稿

３つの城と桜に満足

山口清光（会員）

本年４月に「三城の桜見学ツアー」に参加しました。桜が満開の上、好天気で、大変楽しく充実した旅行になりました。

最初の見学先は『名古屋城』。名古屋城は、家康に普請を命じられた西国大名20家の天下普請により、慶長17年（1612年）にほぼ完成した広大な平城で、尾張初代藩主・徳川義直以降、徳川御三家筆頭の居城として栄え、天守・本丸御殿・櫓は近代まで良く残り、昭和５年には城郭建築として初めて国宝に指定されました。しかし、惜しむらく昭和20年５月の名古屋空襲でわずか隅櫓三棟などを除く、天守・本丸御殿など主たる建物は灰塵に帰しました。現在の大天守閣は、天守閣の再興を願う名古屋市民の熱意と寄付を基に、昭和34年に完成した鉄骨鉄筋コンクリート造りの外観５層７階建の博物館相当施設です（元の大天守は５層５階でした）。『本丸御殿（藩主の住居・政庁）』もありましたが、これも空襲で焼失しました。

２番目に行ったのが国宝の彦根城です（**写真**）。慶長５年（1600）の関ヶ原合戦の直後、家康の命により井伊直政が石田三成の旧城・佐和山城に入城しましたが、関ヶ原合戦で受けた傷がもとで亡くなり、長男の直継が家督を継ぎました。慶長９年から約20年をかけて、彦根山（50m）の山上に彦根城が完成しました。三層の天守は京極高次の旧大津城の５層天守を移し、上部３層を彦根城に造り変えたもので、非常に質朴・堅固な天守閣です（内部の階段も急勾配です）。昭和27年に「彦根城天守と附櫓及び多聞櫓」が国宝に指定されました。天守の３階からは、彦根市内が一望され、東方数キロ先には、石田三成の旧佐和山城があった佐和山が見渡せます。

最後の１城は長浜城（正式には長浜市長浜城歴史博物館）でした。

埼 玉 県 立 歴 史 と 民 俗 の 博 物 館 ・ 友 の 会 見 学 会

浅間山噴火鎮魂の百体観音堂と延喜式神名帳・名神大社金鑽神社

天明３年（１７８３）７月８日、浅間山は大爆発をおこし、すさまじい量の熱泥流は利根川流域の村々を押し流しました。下流の村人は流れてきた夥しい死体を埋葬し、児玉町成身院の住職は川畔に壇を築いて法華経一万部を読誦してその霊を弔い、さらに供養のために百体観音堂（さざえ堂）の建立を発願しました。二度の再建を経た観音堂は遠く浅間山を背に今も佇んでいます。

今回は浅間山噴火鎮魂の地とともに、山を御神体とする式内名神大社・金鑽神社、加美郡・式内社を回り、上州と深い繋がりのあった県北の地を旅します。

日　時：８月２７日（日）午前８時出発
大宮駅西口ソニック横

参加費：７，０００円

コース：①子安観音（伊勢崎市戸谷塚町・天明泥流遺体埋葬供養地）→　②成身院・日本三大さざえ堂＝百体観音堂（本庄市児玉町）→　昼食　冬桜の宿（神川町矢納）→　③金鑽神社（神川町・武蔵二ノ宮）多宝塔…御神体御堂ケ嶽の拝殿　→　④大光普照寺（金鑽山元三大師）→　⑤今城青坂稲実池上神社（神川町関口）→⑥元阿保稲荷神社古墳（前方後円墳）他→　大宮駅西口 18 時着予定

◎ご参加の申し込み

・定員　４５名（定員になり次第締め切ります。）
・会員のご家族・ご友人はご参加可能です。お誘いあわせ下さい。
・申込み方法　往復ハガキに①「８月２７日見学会」②住所③氏名④会員番号④電話番号（携帯番号も）⑥希望・連絡事項を明記して宛先へ。
※往復はがきは、往信・復信各々６２円です。※文字は楷書でお書きください。
・宛先　〒337-0006　さいたま市見沼区島町１２３７－１３　山田貴和宛
・問合せ・連絡先　０４８－６８７－８２５３　山田

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会